

## 第6 アクセシビリティに配慮したホームページづくり

ここでは、県ホームページにおいてアクセシビリティに配慮したホームページづくりを進めるために特に注意すべき事項を示します。

県ホームページのアクセシビリティのレベルを向上するには、すべての所属において、ホームページ作りに関わるすべての職員の取り組みが不可欠です。ここに掲載した内容をよく理解した上でホームページづくりを行ってください。

### ウェブアクセシビリティとは

「ウェブアクセシビリティ」とは、「高齢者や障害者など心身の機能に制約のある人でも、年齢的・身体的条件に関わらず、ウェブで提供されている情報にアクセスし利用できること」を意味します。

ウェブアクセシビリティは、JIS規格（JIS X 8341-3「高齢者・障害者等配慮設計指針－情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス－第3部：ウェブコンテンツ」）が作られるなど、高齢者や障害者の利用に応じた様々な規定が設けられています。

### 長野県ホームページの状況

県ホームページのアクセシビリティに関する評価は決して高くありません。これは、ホームページ作成の最低限のルールが守られていないことによるものです。

近年、CMS（コンテンツ・マネジメント・システム）といったホームページ管理・掲載システムが普及しており、こうしたシステムを導入することにより解決する部分もあります。しかし、最終的には作成する職員一人ひとりがアクセシビリティに関する意識を高めて取り組むことが最も重要で、みんなで取り組みればアクセシビリティのレベルは大きく向上します。

### これだけに対応してほしい10項目

ホームページの作成に当たって気をつける点は、「第5 ホームページ作成ガイドライン」で示していますが、アクセシビリティ上で特に気をつけるべき10項目をまとめました。

- 1 画像には必ずテキストで代替情報を付ける（alt属性を付ける）こと
- 2 リンクする画像全てにテキストで代替情報を付けリンク先を明確にすること
- 3 外国語、専門用語、読みの難しい言葉等を乱用せず誰にでもわかるように配慮すること
- 4 色によって伝えられる情報は、色がなくても情報が伝わるようにすること
- 5 ページの内容がわかるように適切なタイトルを付けること
- 6 配置のための表組みは情報が適切に音声ブラウザで読み上げられるようにすること
- 7 文字の設定は障害者や高齢者の利用に配慮した形式にすること
- 8 単語の文字の間にスペースや改行を入れないこと
- 9 リンクの設定は音声ブラウザ等の利用者にもわかりやすいよう配慮すること
- 10 情報は基本的にHTMLで提供し、PDF等の利用は最小限の範囲とすること

# 1 画像には必ずテキストで代替情報を付ける (alt 属性を付ける) こと

## 【守られないと・・・】

- ・音声ブラウザやテキストブラウザの利用者は、代替テキストがない場合、画像で示されている情報を理解できない。

## 【対応例】

画像の種類	代替テキストの用意の仕方の例
情報としての意味をもつ写真、イラスト	画像の内容を簡潔に記述する 例：会見を行う知事の写真の場合 →「写真 会見を行う知事」
イメージや雰囲気を表していて情報としては意味を持たない写真、イラスト	画像の内容を簡潔に記述する。 例：ヨットが浮かびオレンジ色に染まる海のイラスト →「イメージ ヨットが浮かびオレンジ色に染まる海」
テキストを画像化したもの(タイトル画像、見出し画像等)	画像化したテキストの内容を代替テキストとして記述する。
地図や見取り図、模式図等複雑な情報を表した画像、グラフ	ALT 属性の中には「～の図」「図1」など簡潔な内容を記述し、必要に応じその概要をテキストで説明する。(本文、図のキャプションなど)
箇条書きの前のポイント画像 配置を制御するための透明な画像	情報として意味のない画像の場合は、alt 属性の中に全角スペースを入れる (alt=" ")。 (設定しないとファイル名を読上げてしまうため)

※alt 属性 (オルト)

Windows で、画像にマウスポインターが乗った時にでる代替文字情報で、音声ブラウザはここに書かれている文字で画像の情報を得ている。

alt = “ ゴルフ場利用税非課税のお知らせ ”  
(alt 指定がないと音声ブラウザで読み上げないため、何のページか分からなくなる)

alt = “ ”  
(イメージ画像の場合は alt をつけなくても、何のページであるかは分かる。  
付けるとすれば「イメージ ゴルフのイラスト」)

### 【チェックポイント】

- ・画像が示している情報の内容は、画像が見えない場合でも過不足なく理解できるか。（ブラウザの設定で画像をオフにして表示する、音声ブラウザ等で聞くなど）
- ・レイアウトの調整のために置かれた画像や、情報として意味のない画像等に余分な代替テキストを指定していないか。

## 2 リンクする画像全てにテキストで代替情報を付けリンク先を明確にすること

### 【守られないと・・・】

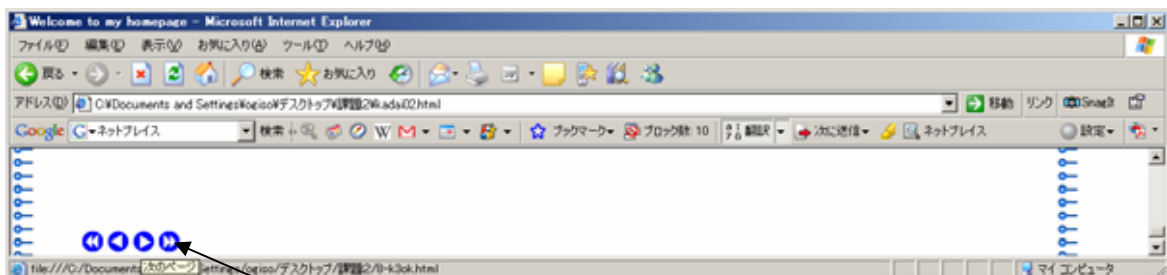
- ・リンク画像の場合、音声ブラウザでは alt 属性が無い時はリンク先の URL アドレスを読み上げるので、音声ブラウザやテキストブラウザの利用者は、リンク画像に代替情報がないと、リンク先を識別することができない。

### 【対応例】

- ・ハイパーリンク画像の alt 属性の中に代替テキストを指定する。
- ・alt 属性の内容は、その部分だけでリンク先の内容がわかるように記述する。
- ・同じリンクが繰り返されることを避ける。
- ・リンクしない画像にバナーに似た形の画像は使わない。

### 【チェックポイント】

- ・リンク画像の上にカーソルを置いた時に、リンク先を適切に示すテキストが表示されるか。



alt = “次のページ”  
と設定していないと、音声ブラウザで読み上げられない。  
(リンク先が分からない)

## 3 外国語、専門用語、読みの難しい言葉等を乱用せず誰にでもわかるように配慮すること

### 【守られないと・・・】

ページ中に外国語、専門用語、読みの難しい言葉等があると、掲載している内容を理解してもらえない場合がある。

### 【対応例】

- ・見出し等の重要な箇所では外国語を用いず日本語又はカタカナで表記する (Top→トップ)。
- ・外国語は、日本語に置き換えられる表現がある場合は日本語で表記する。
- ・ページ内の最初に出現した箇所等に、カッコ書きによる読み仮名、言い換え、正式名称を

添える。また、専門用語については解説等を添える。

#### 【チェックポイント】

- ・掲載した情報に詳しくない人でも内容が十分に伝わるか。

## 4 色によって伝えられる情報は、色がなくても情報が伝わるようにすること

#### 【守られないと・・・】

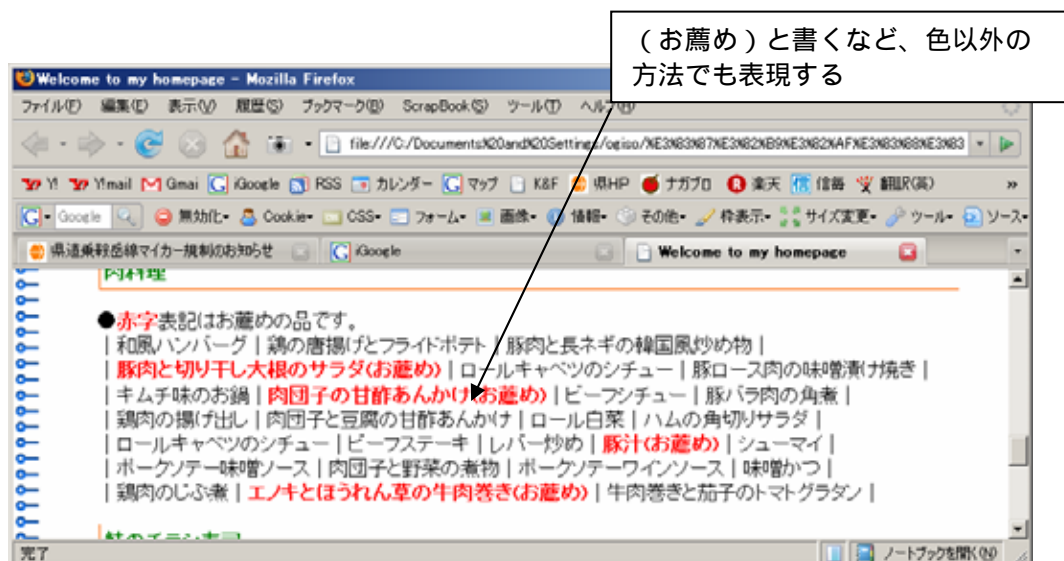
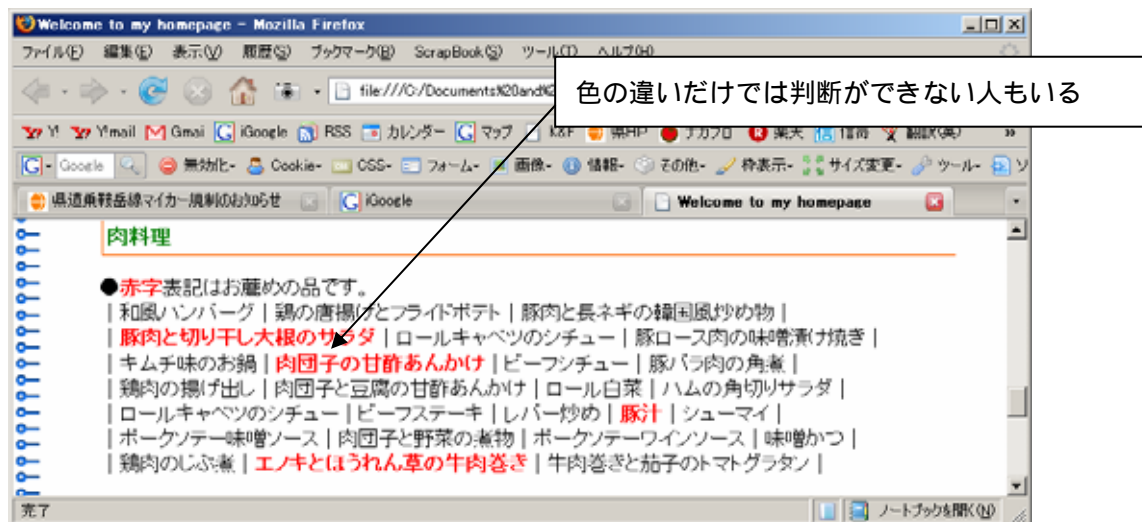
- ・色の違いで表現や指示を行うとわかりやすくなるが、色の違いだけでは、音声ブラウザやモノクロブラウザを使う人や色の区別のつかない人にはその意味が伝わらない。

#### 【対応例】

- ・強調したい単語や文章には、色の違いだけでなく太字にする。
- ・グラフや図は塗りつぶしパターンの違いで表現する。また、グラフでは凡例だけでなく引込み線を用いる。
- ・文字色の違いと一緒に記号等で表現する

#### 【チェックポイント】

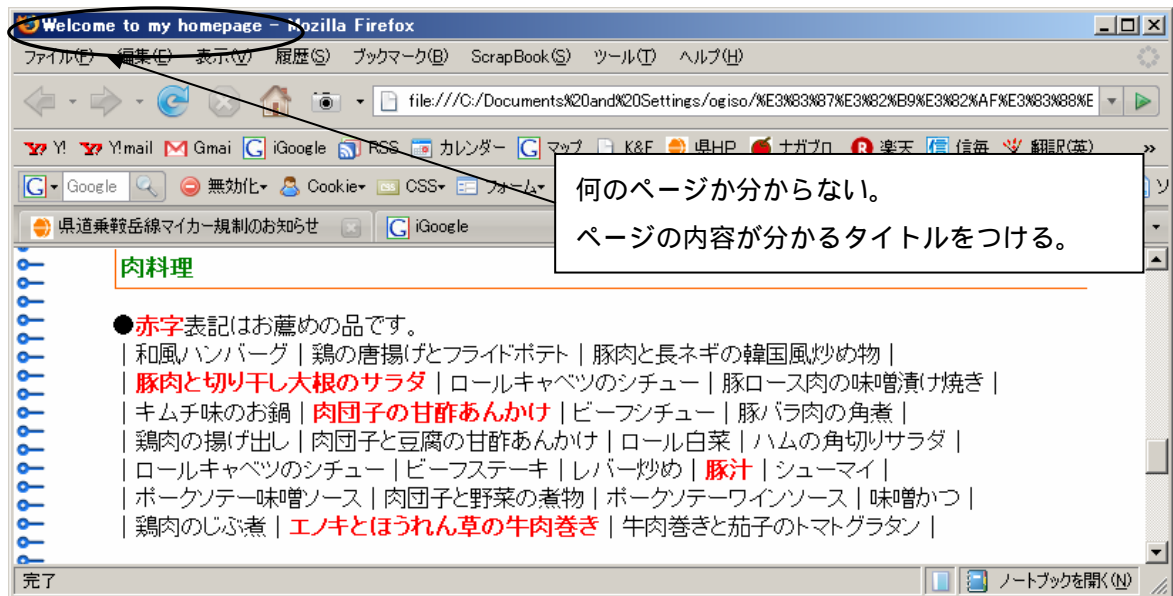
モノクロで見たときに正確に情報を把握できるか



## 5 ページの内容がわかるように適切なタイトルを付けること

### 【守られないと・・・】

- ・ページタイトルが適切に付けられていない（タイトルが付いていない、内容と異なるタイトルになっているなど）場合は、音声ブラウザ等の利用者がページの概要を理解できなかったり、目的のページかどうかを判断できなかったりする。
- ・検索エンジンで検索したときに、関係した項目で表示されない、上位に表示されない、関係ない項目で表示される、といったおそれがある。
- ・「お気に入り」等に登録した時に正しい内容が表示されない。



### 【対応例】

- ・ページ内容を最も端的に表す単語やフレーズを含める。
- ・長すぎないように、簡潔な表現にする。
- ・ホームページ内で同一のタイトルのページが複数出ないようにする。

### 【チェックポイント】

- ・ブラウザを開いた時に、内容を示すタイトルが正しく表示されるか。

## 6 配置のための表組みは情報が適切に音声ブラウザで読み上げられるようにすること

### 【守られないと・・・】

- ・HTML の table 要素を使ったページレイアウトにする場合、視覚障害者用の音声ブラウザ等での読み上げ順序に配慮した設計にしないと情報が正しく伝わらない場合がある。

### 【対応例】

- ・配置のために表組み（table 要素）を用いる場合は、音声ブラウザ等での読み上げに配慮した配置とする。

### 【チェックポイント】

- ・ テーブルを使った部分をコードで見た時に想定どおりの順番になっているか。

< table 要素を使ったページレイアウトの読み上げ例 >

①	②	③
④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨

①		③
④	②	⑤
⑥	⑦	⑧

HTML で記述されている  
順番に読み上げられる。  
表の配置から見ると、横  
へ順に読み上げられる。

## 7 文字の設定は障害者や高齢者の利用に配慮した形式にすること

### 【対応内容】

- ・ 文字の色を指定する場合には、コントラスト、配色に十分配慮する。
- ・ 文字サイズや書体を指定せず、ブラウザで指定されたサイズ・フォントで表示がされるようにする。
- ・ 使用する文字は全角の漢字・ひらがな・カタカナ・英数字と半角英数とし、半角のかな文字、機種依存文字は使用しない。
- ・ 年月日の表記は、「〇年〇月〇日」と表記する。（「200X/X/XX」だと、音声ブラウザでは別の読み方をしてしまう）

### 【守られないと・・・】

- ・ 文字の色と背景色の組み合わせによっては、色の識別がしにくい人は文字が読み取りづらくなる可能性がある。
- ・ 文字サイズを固定すると、利用者はブラウザの文字サイズ変更機能を利用して拡大することが利用できなくなる。
- ・ 機種依存文字はOSやブラウザの種類によって正しく表示されない場合がある。

### 【対応例】

- ・ 制作時に複数のスタッフで配色がわかりにくいことを確認する
- ・ フォントは固定しないこと。
- ・ やむを得ずサイズを指定する場合は、10～12ポイント程度の見やすい大きさとする。
- ・ 読みを平仮名、カタカナ等で記述する。また、類似の別の漢字や、算用数字等を代用する。
- ・ 漢字や記号を画像で作成して配置し、読みを代替テキスト（alt 属性等）で記述する。
- ・ 複数のアルファベット（cm等）や文字の組み合わせでできた文字（栞等）は1文字ずつ書き下す。
- ・ 金額を表す場合、“¥”ではなく“円”を使う。（“¥”が音声ブラウザで読み上げられないため）

## 8 単語の文字の間に空白（スペース）や改行を入れないこと

### 【守られないと・・・】

- ・表示の体裁を整えるために単語の途中に空白や改行を入れると、音声ブラウザ等では一つの単語として認識しないため、うまく読み上げられなくなり、利用者が内容を理解できなくなる。

#### < 音声ブラウザの読み上げ方 >

「知 事 会 見」→「ち・こと・かい・み」

「所 在 地」→「ところ・ざい・ち」

### 【対応例】

- ・原則として単語の文字の間に空白や改行は入れないようにする。
- ・文字のレイアウトが必要な場合は、スタイルシートで調整するか、画像にして挿入する。

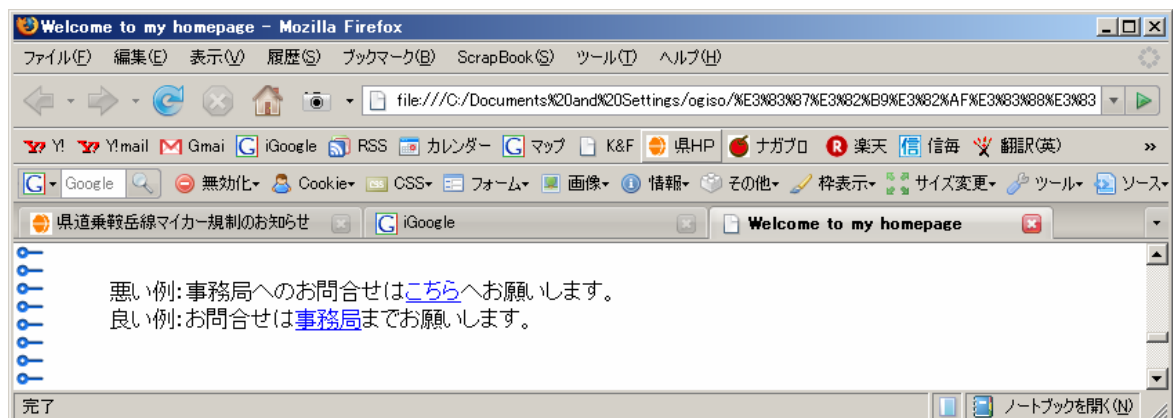
## 9 リンクの設定は音声ブラウザ等の利用者にもわかりやすいよう配慮すること

### 【守られないと・・・】

- ・音声ブラウザ等の利用者は、的確なリンク表現が行われていないと、どのようなページにリンクしているか判断できない。

### 【対応例】

- ・リンクテキストは簡潔でわかりやすいものとしを、リンク先の内容を判断しやすくする。
- ・URLアドレスの文字列にリンクを直接設定しない。
- ・指示代名詞だけでリンク先を指定しない（例：ここ、こちら 等）。
- ・「クリック！」など、リンク先の内容を推測できない表現を用いない。
- ・リンク以外の場所では下線を使わない。（リンクできると間違えてしまう）
- ・適度なリンク範囲を確保できるように文字列全体にリンクを設定する
- ・隣接するリンクの間は、適切な間隔を設ける
- ・テキストリンクが横に並ぶ場合、各テキストリンクの間に縦線や斜線を入れる



## 1.0 情報は基本的に HTML で提供し、PDF 等の利用は最小限の範囲とすること

### 【守られないと・・・】

- ・PDF は HTML 化作業をすることなく簡単に作成できるほか、資料の正確な印刷イメージを提供できるが、閲覧に専用ソフトが必要な上、現状では音声ブラウザ等で正しく読み上げられない場合がある。
- ・MS-WORD、MS-EXCEL は、利用者に対応ソフトを導入していない場合、表示・利用できない場合がある。

### 【対応例】

- ・専用ソフトが必要になる PDF、MS-WORD、MS-EXCEL などの使用は最小限の範囲とする。
  - ◆PDF を使った情報提供＝資料の正確な印刷イメージを提供するもの  
→発表資料（プレスリリース）、パンフレット、広報紙・チラシ、会議資料、計画等の本文、申請等の様式等
  - ◆CSV を使った情報提供＝統計情報等、表形式で提供するもの
  - ◆MS-WORD、MS-EXCEL を使った情報提供＝利用者が加工利用するもの  
→申請等の様式、各種統計情報等
- ・アクセシビリティに配慮した PDF 形式で制作し公開（Acrobat バージョン 5.0 以上）すると同時に、掲載の際には PDF ファイルの情報内容を説明するテキスト等を提供する。
- ・リンク場所にはファイルの形式、サイズ及びページ数を明記する。  
例 PDF 形式：××KB/×ページ
- ・資料等でページ数が多くなる、データ量が多くなる場合は、分割して提供する。
- ・計画等の本文を PDF で提供する場合は、できるだけその情報の概要が HTML ページでわかるようにする。
- ・プラグインの最新バージョンをダウンロードできるページへのリンクを提供し、プラグインを持っていない利用者が入手しやすいようにする。

(ここに掲載する内容は以下の関係サイトを参考にまとめたものです。)

「アクセシビリティ・ガイドライン」(株式会社ユーディットホームページ)  
<http://www.udit.jp/ud/web/guide/guide.html>

「アクセシビリティの第一歩」(株式会社ユーディットホームページ)  
<http://www.udit.jp/ud/web/guide/essential-guide.html>

「アクセシビリティを学ぶ」(株式会社A．A．O．ホームページ)  
<http://www.aao.ne.jp/accessibility/index.html>

「みんなの公共サイト運用モデル」(総務省ホームページ)  
[http://www.soumu.go.jp/joho\\_tsusin/w\\_access/index.html](http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/w_access/index.html)

「みんなのウェブ」(独立行政法人情報通信研究機構(NICT)ホームページ)  
<http://www2.nict.go.jp/v/v413/103/accessibility/index.html>